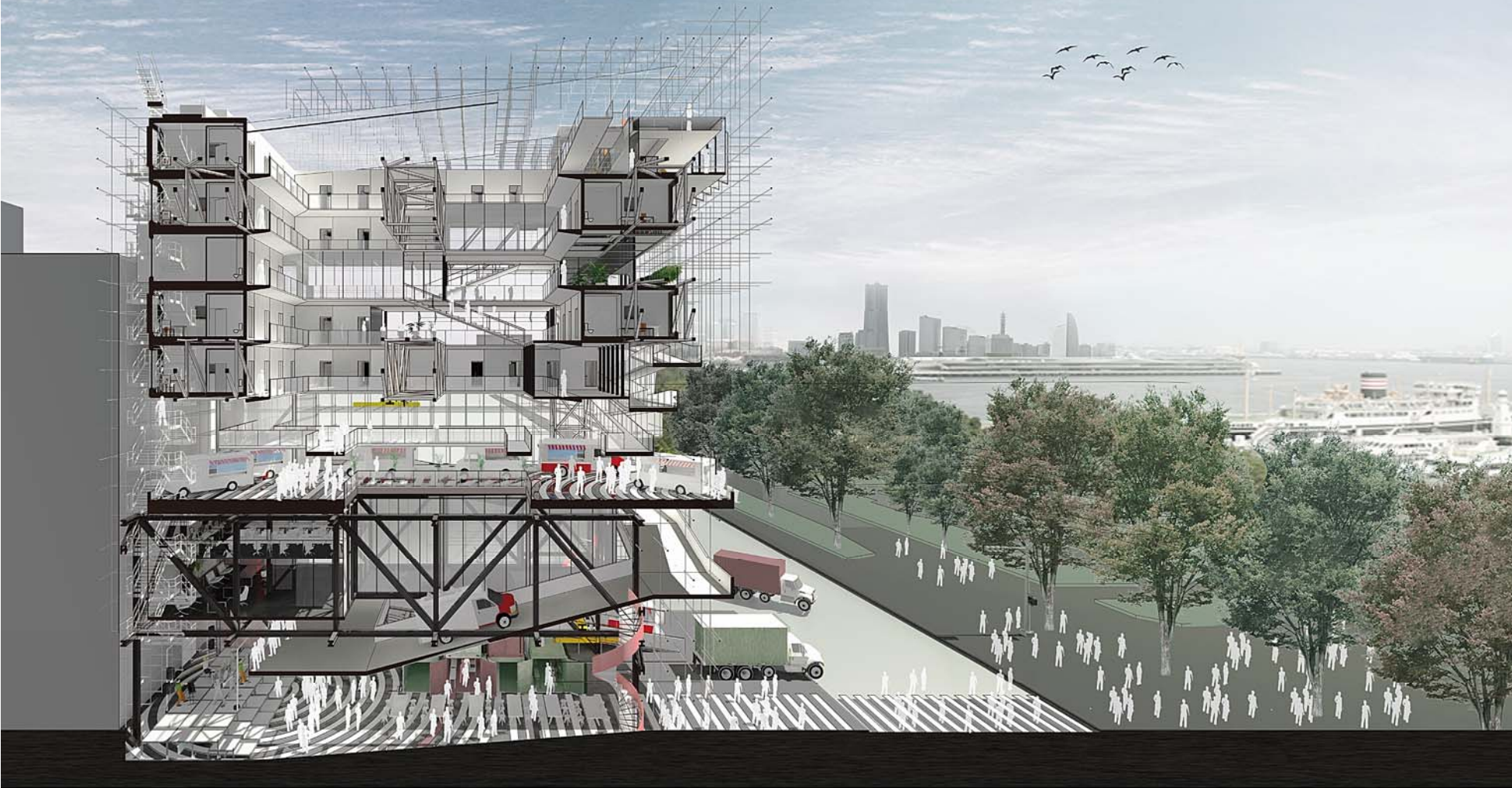


Yokohama HUB

横浜は、港街として発展するため、常に時代と共にインフラを更新し続けてきました。その結果、フェリーやコンテナ、トラックなどの動的インフラがあふれ、それが横浜らしい活気を街に与えてきました。Yokohama HUBは、その性質をさらに活性化しつづけた新たなプラットフォームとなる。イベントコンテナやフードトラックのステーションです。コンテナ・屋台を需要に応じて横浜中の観光地やイベントエリアに配給します。さらに、Yokohama HUBにおいても、それらのストックを利用して毎日イベントが開かれます。

Yokohama HUBは、横浜の各地を結びつける中枢インフラとなると同時に、コンテナの供給・輸出を通じて、横浜と日本各地、さらには横浜と世界各地をつなぐHUBにもなります。



■ YOKOHAMA-Transportation City

1. 変わり続けるまち、横浜
かつて文明開化の時代に、横浜が文化の発信地になったように、現在でも魅力的な文化の発信地となり、街は更新され続けています。また多くの場所がイベントが開かれ昼と夜では大きく姿を変えます。その変化し続ける状態が横浜らしさであるといえます。



2. 点と点をつなぐ必要性
横浜には魅力的な場所が多く存在していますが、それぞれ強い個性を持ち独立した観光地となっていて、これらをつなぐ必要を感じています。これらをつなぐ必要を感じています。これらをつなぐ必要を感じています。

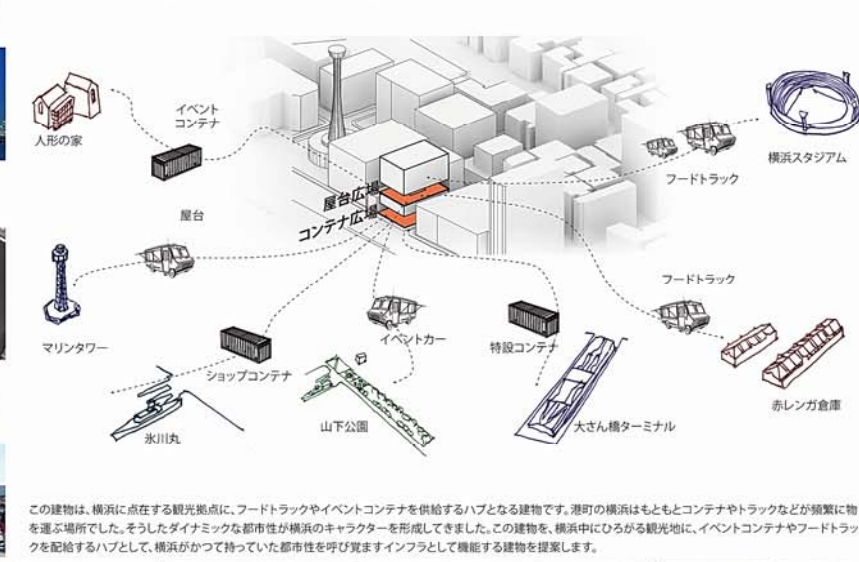


3. コンテナ・フードトラックの可能性
観光は、ネットの発達した時代において、人々の要求に対してハードの道具のスピードが最も必要とされる分野といえます。そこで最小の設備でアドホック的に、観光現場においてあらゆるサービスを行うことが出来る最軽量のハードとしてイベントコンテナと屋台車両を活性化するための提案として用いられることを提案します。



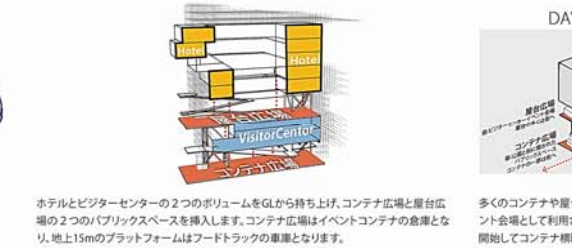
■ Distribution of Containers and Foodtrucks

1. 横浜中に広がる観光地にコンテナやトラックを送りだして、ノードを結ぶハブとなります。



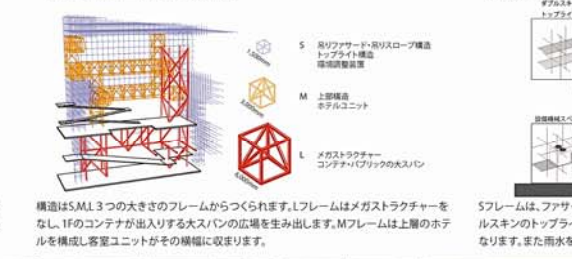
■ Architectural Strategies

1. 断面構成
2. 昼夜の変化
3. ホテルからみつけパブリックスペース



■ Structure and Environment

1. S/M/L 3種類の構造体
2. Sフレームの環境機能
3. 環境解析



■ Exploded Axo

3種類の構造体の中に、4つの機能が収まる。

